

令和4年度 第4回鈴鹿市立加佐登小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和4年11月17日(木) 13:30~15:30

2 場 所 加佐登小学校 少人数教室, 図書室

3 あいさつ

(副委員長より) 子どもの様子についてご意見を出し合ってください。

4 協議内容

(1) 子どもの様子, 教育活動についての意見交流について

○放課後遊びの待ち合わせをマックスバリューですることがあるがよいのだろうか。学校の決まりはあるのか。

→学校の決まりにはない。買い物をしないのに店内に入るのはいけませんが、外での待ち合わせは利用させてもらってよいと考える。

○最近夕暮れが早いので、真っ暗の中自転車で帰っている子がいる。17:00に町に流れる「夕焼け小焼け」をもう少し早い時刻に鳴らしてもらえないか。特にフラワーパークで遅くなると心配である。

→加佐登は公民館と白鳥中のスピーカーから「夕焼け小焼け」が流れている。畑仕事をしている地域の人時計代わりにもなっているので小学生に合わせるために時間変更するのは難しい。月によって流れる時刻が違う。11月は16:30に流れている。

○コロナ第8波とインフルエンザの流行が懸念されているが学校の対策を教えてください。

→対策は加佐登小独自ではなく、文部科学省に従い市からの指示に合わせている。換気, 手洗い, マスク着用など, 基本的な対策を継続している。学校では常に間隔をとることは難しいためマスクを場に合わせて着用している。これからの季節は暖房をかけながら窓を開けて換気を行っていく。

○朝の登校は, 6年生のことを聞いて, きちんと並んで歩いている。

○青パトががんばってパトロール活動をしてきている。帰りも一生懸命見守り活動をしてくれていて, 子どもが安心して登下校ができている。いい取り組みである。

○学校に来ると, びっくりするぐらい挨拶をしてくれる。良い指導をしてもらっていて, 子どもらしくすくすく育っていると感じる。

○ICT環境が整ったので, 普段会えない人を講師にしたりオンラインでつないで授業をしたりしてはどうか。

→先日杉の子特支との交流に活用したり, カンボジアから様子を伝えてもらったりした。これから活用の幅を広げていけるとよいと考える。

○市P連で, 子どもにマスクを外せない子がいるという問題を聞いた。コロナが落ち着いているときに大人が外してみてもどうか。外で一人にいるのにマスクを着

けている姿を見る。マスクを外しているのが普通という感覚を子ども達に伝えていかななくてはならない。

→現在、学校では学びをとめないよう対策を講じながら教育活動を行っている。

体育や外遊びではマスクを外しているが、学校の中では2mの間隔を常時とることは難しいためマスクを着用している。

○杉の子特支学校の子どもは、一つずつマスク着脱の指示を出して子どもが判断に迷わないようにしている。また、マスクをつけられない子もいるので、地域の配慮やあたたかい目線がありがたい。鳥羽水族館ではマスクをつけられない子に「わけありマスク」のシールをリュックサックに貼ってくれて配慮してくれた。

○マスクを外して行動することは現状では難しいことが多いが、自己判断は低学年の子どもには特に難しい。今後に向けてメリハリをつけてマスク着脱への指導をしてほしい。

5 その他

(1) 学校関係者評価について 1月半ばに配布依頼。

(2) 次回 1月26日(木) 15:30~16:30

6 教育支援課 アドバイザーより

フリートークで子ども達の生活や教育の内容について意見をいただいた。帰る時刻の話では、地域の方が心配してくれていることを学校や保護者が子どもに伝えていくのは良いことである。加佐登の青パトは子どもの安全安心のため熱心に取り組んでもらっているので引き続きお願いしたい。子ども達は地域の人に見守られている、見守ってくれている人がいると感じながら登下校できる。市からは6台が青パトで見守っている。マスクについては様々な意見を出してもらった。これからどうなっていくのかという中で「親がマスクを外す手本を見せよう」という発言は、子どもが自分も外してよいのだと判断できるようになることにつながる。マスクを外せない子が外せるように教育委員会にこの意見を持ち帰る。また、学校に来たら「こんにちは」とあいさつをしてくれた。地域で子どもを育ててもらっていると感じる。